

学校名	仙台市立七郷小学校
担当教員名	

活動のテーマ	未来の七郷～荒浜からの学びを生かして～
主な教科領域等	教科領域（総合的な学習の時間）
活動に参加した児童生徒数	（ 6 学年 164人）（複数可）
活動に携わった教員数	9 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	61 人 【保護者・地域住民・その他（震災遺構の案内ボランティア） 地域復興ボランティア、卒業生、緑化関係者、大学関係者（山形大）、仙台市百年の杜推進室等
実践期間	平成 30年 4月27日 ～ 平成 31年 3月 15日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 ○地震・○津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

旧荒浜小学校の側にある「冒険広場」は、東日本大震災で被災し大規模な改修工事を行っている。海から約300メートルの場所にあったため、津波でたくさんの樹木がなぎ倒され、裸同然になった公園だが、種が落ち実生の苗が育っていた。しかし、工事によってその場所も埋め立てられてしまうことを聞き、当時4年生だった児童はその苗を保護することにした。2年間学校で世話をしてきたが、平成30年7月の冒険広場のオープンに合わせて植樹し、防災林の再生に関わることで、自分たちの町の防災に役立つ活動をしているという意識を持たせたい。最終的には「未来の七郷の町作り」の学習に繋げていきたい。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（写真資料有り）

1次	「荒浜編」20時間 荒浜の良さを調べ、地域住民のつながりの良さが防災面でも役立つことに気付き、七郷の良さを再発見するとともに地域の一人として自分たちにできる行動を考えて取り組む。
2次	「福島編」16時間 防災の視点から城下町会津の特徴や工夫を捉えるとともに、同じ被災地である福島の人々の思いを知る。
3次	「七郷編」10時間 七郷の町を歩いたり地域の人にインタビューしたりして、その良さや課題に気付き、次単元の町作りの活動に生かす。
4次	「未来の町作り編」24時間 15年後の七郷・荒浜の姿を模型にする活動を通して、これからの社会に夢や希望を持ち、保護者や地域の方へ自分たちの思いを伝える。

第4次の「未来の町作り」は、ただの夢物語に終わらないよう、地域の方の声を聞くことに重点を置いた。七郷小周辺は実際に児童が聞いて回ったが、荒浜地区に住んでいた人は、現在、様々な場所に家を再建しており、実際に聞いて回ることが難しいため、沿岸地区再開発の際に行った住民アンケートを全員が読むことにした。100枚以上アンケートを読み、荒浜地区がどのように復興して欲しいか、住んでいた人の思いを理解することができた。その上で、①セーフティ（安全性）②サステイナブル（持続可能性）③ユニバーサル（普遍的・共通）の3観点を意識した町を模型で表現することにした。

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。職員向けにESDの研修会と気仙沼・石巻の現状を報告する会を設けた。防災教育の重要性について職員全体

で再確認することができた。次年度以降も七郷小では防災・安全の学習を続けていく。

6年生は、昨年度までは、学校周辺を探索して見付けた「ふるさと自慢」「もっとこんな物があつたらいい」と考えたものを「未来の七郷」の模型に反映させてきた。今年度は、助成金を活用したことで、6年生全員が荒浜を訪問できたので、荒浜の未来についても考えることができた。そこで、七郷と荒浜周辺の2部構成で模型を作ることにした。また、現在の海岸整備や再開発の様子にも興味を持つことができ、地域の復興の様子も感じることができた。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

本校独自で製作している防災・安全の学習で扱う目標や内容は、新指導要領とも合致している。各学年で実施した単元で、継続が難しいものについてのみ内容を改訂していくことにした。(1月下旬に次年度の防災学習について校内で検討会を実施予定、そこで取捨選択していく。)

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身に付けたか。

荒浜を訪れ、防災林について「守ってくれてありがとう」「30年後の防災林のためにこれからも植樹活動ががんばりたい」という児童が多く見られた。植樹活動は、長く故郷とつながるきっかけになると考えられる。自分にできることを具体的に考える力も付いてきた。また、防災の視点や地域の人々の思いを取り入れた「荒浜カルタ」を作成した。自分が植えた松の木に対する思いや、復興への思いが反映されていた。(当日実物持参)

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

植樹の活動については今後も継続したい。複数年にわたる学習活動になることも考えられるので、学校全体での取組と仙台市百年の杜推進室をはじめ、関係機関に協力してもらいながら活動していきたい。市民活動として植樹に参加している児童も年々増えているので、学校としてもサポートしていきたい。

児童の考えた「未来の町」は、「七郷の地域の方へ向けて」、「荒浜の方へ向けて」、「保護者へ向けて」の3回に分けて発表会を行った。(5年生も発表会に参加した。)招待した荒浜の方は高齢の方が多く「震災のことを早く忘れたいと思ってきたけれど、若い人たちはこうやって未来のことを考えていて、すごいと思ったよ。」と感想を述べていた。「発表会を見に行った日の夜はうれしくて眠れなかった」という手紙もいただいた。被災後は、仙台市の様々な場所で生活しており、コミュニティが解体してしまった現在、発表会に招待することで荒浜地区に住んでいた方の顔合わせの機会となった。8年経った今も、荒浜地区へ足を運ぶことができない人もいるそうで、そのような方にも、児童の作成した「未来の町」を見せたいというご意見をいただいた。児童の活動が、荒浜の方の心の復興につながればと思う。

童の考えた「未来の七郷」は、例年、地下鉄荒井駅に隣接している3・11メモリアル交流館に展示してもらい、地域の方へも児童の思いを伝えている。今年度は、若林区民参画イベントにも展示され6年児童もそれに参加した。

5) 自校の実践で工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

本校独自で開発した防災安全の学習の指導要領があり、それを基に授業を展開している。(別紙資料)その際、発達段階に応じて必要な知識・技能を習得できるように、6年間でどのような内容を指導していくか系統立てて取り組んでいる。また、各学年の教科と関連させた横断的な取組ができるように単元を構成している。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

震災後から取り組み始めた本校の防災教育は次年度から大きな転換点を迎える。これまでは、震災を体験した児童を対象としてきたため、児童の心のケアに配慮し、尚且つ復興に向けて前向きな気持ちになれるような学習プログラムを考えてきた。次年度以降は、震災の記憶のない子供たち、震災時まだ生まれていない子供たちの世代になる。心のケアだけでなく震災をどのように自分事として捉えることができるかが重点課題になってくる。そのため、既存の学習プログラムを変更していく必要がある。多重防災の一端を担う松林の再生として植樹活動を行ってきたが時間も費用もかかる。関係機関に協力してもらい今後も継続できるように働き掛けていきたい。

また、アクサ・ユネスコ減災プログラムに参加した、全国の先生方とのつながりを大切にして、今後も情報交換をしながら防災教育を推進していきたい。

7) その他 (※特にあれば記述)

- ・自校作成の防災・安全の学習指導要領 別紙添付資料
- ・活動の写真あり (植樹活動の様子)
- ・当日持参資料 (荒浜カルタ)

小学校学習指導要領

防災安全科

平成28年3月

仙台市立七郷小学校

小学校学習指導要領 防災安全科

● 第 1 目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り，身の回りの危険を予測して，どのように行動すればよいかを判断し，自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに，他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。

● 第 2 各学年の目標及び内容

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

1 目標

- (1) 身近な災害等の危険や助けの求め方を理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気付き，どのように行動すればよいかを考えることができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わろうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震，津波，噴火，台風，集中豪雨，強風，竜巻，雷，大雪等)
 - ア) 地震や津波について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などについて知る。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 地震や津波による危険について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などによる危険について知る。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 地域に伝わる災害の伝承を知る。
 - イ) 地域に起こった災害を知る。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 地域の人々が協力して防災に取り組んでいることを知る。
 - イ) 地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。
- (5) 日常生活や交通場面における危険を理解する。
 - ア) 校内，校外で起こるけがの原因や危険を知る。
 - イ) 登下校時の歩き方や横断の仕方，自転車の乗り方の基本を知る。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 危険から身を守る方法や避難の仕方を知る。
 - イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 住所や電話番号など、自分の情報の伝え方を知る。
 - イ) 家族の連絡先を知る。
- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 軽いけがの時は傷口を水洗いすることを知る。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを知る。
 - イ) 家庭では物資や食料に関して、どのような備えがあるかを知る。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
- (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 学校で備蓄や備えがあることを知る。
 - イ) 地域の避難場所や子ども110番の店などを知る。
 - ウ) 地域には防災に役立つ設備があることを知る。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では、周りの人の指示をしっかりと聞き、落ち着いて行動する大切さを知る。

D 危険予測・判断に関すること

- (1) 危険を予測する。
 - ア) 災害等による危険を考える。
 - イ) 通学路での災害等の危険を考える。
- (2) 安全のために判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを考える。
 - イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを考える。

E 支援者の基盤に関すること。

- (1) 冷静な行動と強い心を持つようとする。
 - ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。
 - イ) どんな時でも頑張る心を持つようとする。
- (2) 感謝や思いやりの心を持つようとする。
 - ア) 地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持つようとする。
 - イ) 友達や周りの人に親切にしようとする。
- (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 動植物の世話を通し、自然を大切にしようとする。
 - イ) 自然の美しさやすごさを感じようとする。

ウ) 生きものに優しくしようとする。

(4) 関わりを持とうとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。

イ) 友達や近所の人たちと関わろうとする。

ウ) 自分の思いを相手に伝えようとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 人の役に立ちたいという気持ちを持とうとする。

(2) 教訓を伝えようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。

(3) 地域に役立とうとする。

ア) 身の回りの人のために役立とうとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A 災害等の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、身近に起こりうる内容を選択して取り扱うものとする。(5)については、生活安全や交通安全の一部を選択して、防災と関連させながら取り扱うものとする。

(2) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(4)については、これから自分にはどんなことができるかを考えることができるようにする。

(3) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び「C 日常の備えに関すること」の(2)については、地域の子ども110番の店の利用と関連付けて取り扱うものとする。

(4) 内容の「D 危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に扱うものとする。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

(1) 地域で起こりやすい災害や過去の災害等を知り、日常の備えについて理解できるようにする。

(2) 災害等による地域の危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。

(3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと接し、家庭や学校の安全のために役立とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

(1) 災害の種類や特徴を理解する。

(地震, 津波, 噴火, 台風, 集中豪雨, 強風, 竜巻, 雷, 大雪等)

- ア) 災害とは何かを理解する。
 - イ) 地震や津波の特徴を理解する。
 - ウ) 大雨や強風, 雷などの特徴を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
- ア) 地震や津波による被害を理解する。
 - イ) 大雨や強風, 雷などによる被害を理解する。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
- ア) 地域に伝わる災害の伝承を知る。
 - イ) 地域で起きた災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
- ア) 関係機関による防災の取組を理解する。
 - イ) 関係機関による災害復旧や復興の取組を理解する。
- (5) 日常生活や交通場面における危険を理解する。
- ア) いつどこでどんなけがが起こりやすいかを理解する
 - イ) 道路交通の危険と道路の安全な歩行の仕方, 自転車の正しい乗り方を理解する。

B 危険から身を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
- ア) 災害等に対応した身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - イ) 119番通報の仕方を理解する。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
- ア) 家族と連絡を取り合う方法を理解する。
- (3) 応急手当の方法を理解する。
- ア) 軽いけがの時の止血方法を知る。
 - イ) AEDの設置場所を知る。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
- ア) ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備蓄について理解する。
- ア) 家庭での設備に関する備えを調べ, 大切さを理解する。
 - イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ, 大切さを理解する。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
- (2) 地域での備えについて理解する。
- ア) 学校の備蓄について調べ, 災害時への備えを理解する。
 - イ) 地域の避難場所や子ども110番の店などの役割を理解する。
 - ウ) 地域にある防災に役立つ設備について知り, 地域の防災を理解する。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では, 話をよく聞いて, 指示に従ったり, 安全に行動したりする大切さを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 災害による危険を考える。

イ) 学校や家庭，地域での災害等の危険を考える。

(2) 安全のために判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。

イ) 学校や家庭，地域での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 冷静な行動と強い心を持つようとする。

ア) 周りの様子や指示に応じて行動しようとする。

イ) 困ったときにも投げ出さない心を持つようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持つようとする。

ア) お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持つようとする。

イ) 友達や下級生に対して思いやりの気持ちを持ち，親切にしようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 生命のつながりを感じて，自然や動植物を大切にしようとする。

イ) 自然の美しさやすばらしさを感じようとする。

ウ) 命あるものを大切にしようとする。

(4) 関わりを持つようとする。

ア) お世話になっている地域の方に自分から挨拶をしようとする。

イ) 地域の行事などに参加し，身の回りの人とつながろうとする。

ウ) 相手と互いに思いを伝え合おうとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) ボランティア活動について知り，自分たちにできることを考えようとする。

(2) 教訓を伝えようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。

(3) 地域に役立とうとする。

ア) 家族や地域のために役立とうとする。

(4) 夢や希望を持つようとする。

ア) 防災の意識を持って安全・安心に生活しようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については，地震，津波，台風，集中豪雨，強風，竜巻，雷，大雪から，その地域に起こりうる内容を選択して取り扱うものとする。(5)については，生活安全や交通安全の一部を選択して，防災と関連させながら取り扱うものとする。

(2) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(1)のイの119番通報については，社会科と関連付けて4学年で取り扱うものとする。

- (3) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(3)のアについては、支援と関連付けて、復旧・復興を目指して地域で活動しているボランティアの団体を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(1)のアについては、道徳の内容とより深く関連付けて取り扱うものとする。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 災害等の原因や仕組み、情報の特性について理解できるようにする。
被害を軽減し、災害後に役立つものについて理解できるようにする。
- (2) 災害等に関する知識や情報、状況等を基に危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 下級生の安全に気配りし、地域の安全のために役立とうとする態度を育てる。
将来に夢や希望を持とうとする。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
 - ア) 災害の種類や特性を理解する。
 - イ) 災害の原因(自然と社会)を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 災害の特性と発生メカニズムを理解する。
(5年で気象、6年で地震と津波)
 - イ) 災害による被害を理解する。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。
 - イ) 東日本大震災や過去の災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 国や自治体による防災に関する取組を理解する。
 - イ) 国や自治体による災害復旧や復興の取組を理解する。
- (5) 日常生活や交通場面における危険を理解する。
 - ア) どんな行動がけがや事故を引き起こすかを理解する。
 - イ) 交通事故の原因と交通の決まり、自転車の安全な利用を理解する。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。
- (2) 情報を活かす方法を理解する。
 - ア) 災害時の心の変化と行動を理解する。
 - イ) 災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。

- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。
 - イ) A E Dの機能を理解する。

- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインが止まったときの対処法を理解する。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。
 - イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
- (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 学校の備蓄を調べ、工夫や災害時への備えを理解する。
 - イ) 地域の防災に関する取組を理解する。
 - ウ) 地域にある防災に役立つ設備について調べ、地域の防災を理解する。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では、危険を予測し、安全を確保するために行動する大切さを理解する。

D 危険予測・判断に関すること

- (1) 危険を予測する。
 - ア) 災害の種類による危険を考える。
 - イ) 場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。
- (2) 安全のために判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。
 - イ) 場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

E 支援者の基盤に関すること

- (1) 冷静な行動と強い心を持つようとする。
 - ア) 状況に応じて落ち着いて行動しようとする。
 - イ) 困難に直面しても負けない強い心を持つようとする。
- (2) 感謝や思いやりの心を持つようとする。
 - ア) お世話になっている方々に感謝の気持ちを持つようとする。
 - イ) 困っている人に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。
- (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 自然の美しさや偉大さを感じ、自然を守っていこうとする。
 - イ) 自然の力を知り、自然に対する畏敬の念を持つようとする。
 - ウ) 命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。
- (4) 関わりを持つようとする。
 - ア) お世話になっている方々に進んで挨拶をしようとする。
 - イ) 地域の行事などに参加し、地域とつながりを持つようとする。
 - ウ) 思いを伝え合い、互いのよさを認めながらコミュニケーションを取ろうとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちにできることを考えて、支援しようとする。

(2) 教訓を伝えようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。

(3) 地域に役立とうとする。

ア) 地域のために役立とうとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持とうとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、日本で起こりうる内容を選択して取り扱うものとする。(5)については、生活安全や交通安全の一部を選択して、防災と関連させながら取り扱うものとする。

(2) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(2)のイについては、社会科の情報手段の特徴と関連付けて取り扱うものとする。

(3) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(3)のアについては、児童の実態に応じて骨折ややけどなどのけがも関連付けて取り扱うものとする。

(4) 内容の「C 日常の備えに関すること」の(1)のアについては、救急箱についても関連付けて取り扱うものとする。

(5) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(4)のアについては、被災体験やそれらから学んだ教訓について、次世代にどう伝え、未来にどう活かしていくかを関連付けて取り扱うものとする。

〔特別支援〕

1 目標

(1) 地震や大雨、強風、雷など、生活の中には危険が潜んでいることを理解できるようにする。

(2) 災害等による身の回りの危険に気付き、身を守ろうとする。

(3) 感謝の気持ちを持って身近な人たちと関わり、自分にできることをしようとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

(1) 災害について知る。

ア) 地震や津波について知る。

イ) 大雨や強風、雷などについて知る。

(2) 災害による危険について知る。

- ア) 地震や津波による危険について知る。
- イ) 大雨や強風，雷などによる危険について知る。
- (3) 日常生活や交通場面における危険を理解する。
 - ア) 校内，校外で起こるけがの原因や危険を知る。
 - イ) 登下校時の歩き方や横断の仕方，自転車の乗り方の基本を知る。
- B 危険から身を守る方法に関すること
 - (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 地震や雷などから身を守る方法や避難の仕方を知る。
 - イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
 - ウ) 安全ノート（自分の住所，電話番号，家族の連絡先，集合場所）を家族と共に作り，使えるようになる。
 - (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。
- C 日常の備えに関すること
 - (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での備えがあることを知る。
 - (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 地域の避難場所や子ども110番の店などを知る。
- D 危険予測・判断に関すること
 - (1) 危険を予測する。
 - ア) 学校や家の周りにある災害等の危険を知る。
 - (2) 安全のために判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを判断する。
 - イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを判断する。
- E 支援者の基盤に関すること
 - (1) 冷静な行動と強い心を持つようとする。
 - ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。
 - (2) 感謝や思いやりの心を持つようとする。
 - ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持つようとする。
 - (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 飼育・栽培活動を通して，自然や命のすばらしさに気付く。
 - (4) 関わりを持つようとする。
 - ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。
- F 社会貢献に関すること
 - (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを，家族や友達に伝えようとする。
 - (4) 夢や希望を持つようとする。
 - ア) 安心して，希望をもって生活しようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 災害等の理解に関すること」の(3)については、生活安全や交通安全の一部を選択して、防災と関連させながら取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び(2)については、防災手帳を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「D 危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に取り扱うものとする。

● 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 防災安全科と各教科，領域の関連を考慮して適切に指導し，学習したことが相互に密接に結びつくようにすること。また，関連がある内容については防災安全科と各教科，領域でも指導を行うことで，より指導の効果を高めるように工夫すること。
- (2) 防災や復旧・復興のために活動しているボランティア団体や地域の方々などと連携，協力を図りながら，それらを積極的に活用するよう配慮すること。
- (3) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき，道德の時間などとの関連を考慮しながら，第3章道德の第2に示す内容について，防災安全科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 心のケアの観点から取り扱う内容については被災者の心情に配慮しながら，児童にとって心理的な負担の少ないものを取り上げるなど，十分に留意すること。
- (2) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については災害の種類や特徴と発生メカニズムを関連付けて取り扱うこと。
- (3) 各学年の内容については，地域や児童の実態に応じて，繰り返し指導したり，防災安全科としては取り上げず，関連の深い他教科，領域を通して指導したりするなど，弾力的に取り扱うこと。

《A 災害等の理解に関する取扱い》

取り扱う災害は，第1，2学年では身近な災害，第3，4学年では地域で起こり得る災害，第5，6学年では日本の災害とする。

A(1)は，全学年ともに扱う。

A(2)，A(3)，A(4)は，第4，5，6学年でそれぞれ1，2項目を選択して扱う。

A(5)は，生活安全，交通安全の一部を防災と関連させて扱う。

《B 命を守る方法に関する取扱い》

Bは，全学年ともに，B(1)，B(2)，B(3)，B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。

《C 備えに関する取扱い》

C(1)またはC(2)は、全学年ともに、それぞれ1項目を選択して扱う。

《D 予測・判断に関する取扱い》

D(1)とD(2)は、全学年ともに扱う。他の項目と関連して扱う。

《E 支援者基盤に関する取扱い》

Eは、主に第1, 2, 3学年で扱う。

E(1)とE(3)は、道徳等で扱い、関連を図る。

《F 社会貢献に関する取扱い》

Fは、主に第4, 5, 6学年で扱う。

F(1), F(2), F(3), F(4)から1, 2項目を選択して扱う。

小学校学習指導要領解説

防災安全科編

平成28年3月

仙台市立七郷小学校

第1章 防災安全科の目標及び内容

第1節 育てたい資質・能力

1 防災安全科が目指すもの

震災の教訓や体験を踏まえ、自らの安全を確保し、周りの人や地域のために役立とうとするとともに、災害に不安を抱くのではなく、自分の将来や社会に夢や希望を持ち、災害に負けない、たくましい子どもを育てていく。

防災安全というと、非常に重要であると捉えられている一方で、児童が積極的に学ぼうとする姿を引き出すことは難しい。それは、扱う内容が災害と安全であり、被害（最悪の事態）を想定させること、実践事例を見ても、防災の知識や技能を身に付けさせる活動が多いことなどが要因となっている。

防災教育の目標は、児童に自助と共助を身に付けさせ、将来、他の人や地域の安全のために役立とうとする人間を育てていくことである。よって、創設する防災安全科においては、単に誰かから防災に関する知識や技能を与えられるのではなく、児童自らがそれらを習得できるようにしていく。また、災害の教訓を基に発展し続けてきた日本について思いを巡らせたり、自分たちが大人やたくさんの地域の方々に見守られていることを実感したりすることなどを通して、自分の将来に対して夢や希望を持ち、学び続ける児童の育成を目指していく。

2 育てたい資質・能力

児童に自助（災害時に自分の命を守り、自らの安全を確保しようとする能力）と共助（他の人や地域の安全に役立とうとする態度）を身に付けさせることが防災教育の目標である。震災の教訓や体験を基にして、防災安全科で育てたい資質・能力を以下のように設定した。

〈自助〉

- 危険を予測・判断する力
（知識や体験、情報等を基にして、危険を予測し、状況を的確に判断する。）
- 安全を確保する力
（予測や判断を基にして、自らの安全を確保するために主体的に行動する。）

〈共助〉

- 人とつながる力
（自他の生命を尊重し、他の人や地域の人と積極的にかかわろうとする。）
- 社会とともに歩む心
（地域の一員として、他の人や地域の安全に役立とうとする。）

3 防災安全科に生活・交通安全の一部を取り入れる意義

防災で培う自助と共助の災害対応力は、日常生活で安全を確保する能力にも共通するものである。普段から安全に心がけていなければ、災害時に行動することはできない。そこで、災害時だけでなく、日常時でも安全に気を付けて過ごし、友達のことを思いやるよう

な子どもの姿を目指すため、防災安全科に生活安全と交通安全の内容の一部を取り入れることとした。

第2節 防災安全科の目標

1 目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り、身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに、他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。

2 目標の構成

防災安全科の目標は、育てたい資質・能力である自助と共助から設定したものである。この目標は、次の3つの要素で構成されている。

- (1) 日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り、
- (2) 身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに、
- (3) 他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。

(1)と(2)は主として自助、(3)は主として共助につながる要素である。(1)は理解に関する目標、(2)は能力に関する目標、(3)は態度に関する目標となっている。防災安全科は、各教科と領域から創設した新領域なので、教科と領域の両方の特色が含まれている。ただし、目標においては、目標と内容、評価を一体化させ、より汎用性のある目標にしていくため、教科型の目標を参考に設定した。

3 目標の趣旨

(1) 理解に関する目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等について理解することは、児童の自助と共助を育てていく上で基礎となる。ここでいう災害とは、地変災害と気象災害に大別され、地震、津波、台風、竜巻、土砂災害等、様々あり、地震に限定されるものではない。また、児童の住む地域により発生する災害の傾向も異なるため、それに合わせて、主として扱う災害も変化させていく必要がある。

「災害等について理解する」とは、単に誰から与えられた災害に関する知識を習得することではない。起こりうる様々な災害と自分の生活とを結び付けて考えるなど、災害を自分の事として捉え、主体的に学んだ結果、知識を習得した状態を言う。その理解は、災害そのものに関するものだけでなく、日常の備え(災害前)、危険から身を守る方法(災害時)、生き抜く知恵(災害後)に関するもの、さらには、生活安全や交通安全など、日常時の危険や安全確保に関するものも含む。防災に関する技能については、防災安全科のみで身に付けさせるのは困難であるため、理解に関する目標の中に含めていくこととする。

(2) 能力に関する目標

自らの安全を確保しようとする能力を育てるためには、身の回りの危険を予測し、その危険から身を守るための判断をする力が必要不可欠である。

「身の周りの危険を予測する」とは、発生状況(時刻・場所)や情報、持っている知識等を基にして、身の回りで起こりうる様々な危険を予測することである。「危険から身を守るための判断をする」とは、予測した危険から回避できる方法を思考し、それらの中から最善の策を選択することである。

なお、予測と判断は、目標と内容においては別に扱うが、災害時には同時に行われるものとして扱う。

(3) 態度に関する目標

「他の人や地域の安全に役立とうとする」とは、単に、児童が目標(1)(2)で身に付けた自助の力を人のために役立てようとする状態のみを示すものではない。防災安全科の学習を進める中で、たくさんの人や思いと触れ合いながら、家族や地域の方々に見守られ支えられていることへの感謝、災害の教訓を基に発展し続けてきた日本人の努力に対する誇り、そして、教訓を伝承していかなければならないという使命などを感じ、自分の将来に対して夢や希望を持った状態を示す。

第3節 各学年の目標

防災安全科の目標を受けて、学年部ごとの目標を理解、能力、態度に分けて、発達段階を考慮しながら設定した。

1 第1学年及び第2学年

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 身近な災害等の危険や助けの求め方を理解できるようにする。(2) 災害等による身の回りの危険に気付き、どのように行動すればよいかを考えることができるようにする。(3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わろうとする態度を育てる。 |
|--|

「身近」とは、児童の普段の生活場所と捉える。災害の危険とは、災害時に起こりうる児童の日常生活を脅かし、身の危険を感じる状況を指す。「助けの求め方」とは、家族や先生、地域の方など、大人に助けを呼ぶ方法である。さらに、身の守り方や避難の仕方、自分の情報の伝え方なども含む。なお、平成28年度からは、生活安全や交通安全など、日常時の危険や安全確保に関するものも含むこととする。

「身の回りの危険に気付く」とは、学校や家庭、通学路などにおいて地震や大雨、強風、雷などに遭ったとき、どんな危険があるか気付くことを指す。「どのように行動すればよいかを考える」とは、危険を避けるための身の守り方を考えることを指す。

「感謝の気持ちを持つ」とは、普段からお世話になっている人たちがいることに気付き、感謝の気持ちを持つことを指す。「地域の人たち」とは、普段から防災や安全のために見守ってくれる身近な人たち(防犯ボランティア、子ども110番の家・店、家族、近所の人)のことを指す。「関わろうとする態度」とは、進んで挨拶をしたり、自分の気持ちを相手に伝えようとしたりすることを指す。

2 第3学年及び第4学年

- (1) 地域で起こりやすい災害や過去の災害等を知り、日常の備えについて理解できるようにする。
- (2) 災害等による地域の危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと接し、家庭や学校の安全のために役立とうとする態度を育てる。

「地域で起こりやすい災害」とは、地震・火山災害と気象災害の中で、児童の住む地域で起こりやすい災害と捉える。「過去の災害」とは、その地域（市町村や県）で過去に起きた災害で記録に残っているものであり、さらに伝承されているものも含む。「日常の備え」とは、災害時や災害後に役立つ家庭での設備、備蓄、約束事、学校や地域での設備、備蓄、防災の取組などを指す。なお、平成28年度からは、交通安全や生活安全など、日常時の危険や安全確保に関するものも含むこととする。

「危険の予測」とは、その地域に起こりやすい災害においてどのような危険が及ぶのかを考えることを指す。「どのように行動すればよいかを判断する」とは、危険を避けるための身の守り方を考え、状況に応じたよりよい安全な行動を考えることを指す。

「感謝の気持ちを持って地域の人たちと接する」とは、日頃から見守られ支えられている家族や地域の方々に感謝の気持ちを持ち、その思いや防災の学び、成長した自分たちの姿を伝えようとする態度である。「家庭や学校の安全に役立とうとする」とは、学校や家庭で自分ができることに気が付き、実践しようとする態度を指す。

3 第5学年及び第6学年

- (1) 災害等の原因や仕組み、情報の特性について理解できるようにする。
被害を軽減し、災害後に役立つものについて理解できるようにする。
- (2) 災害等に関する知識や情報、状況等を基に危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 下級生の安全に気配りし、地域の安全のために役立とうとする態度を育てる。
将来に夢や希望を持とうとする。

「災害」とは、地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等を指す。

「災害の原因や仕組み」とは、地震・火山災害と気象災害の中のそれぞれの災害の特性や発生メカニズムを指す。「情報の特性」とは、災害時に情報を入手する方法や活用の仕方を指し、情報に影響される心の変化も含む。「被害の軽減」とは、家庭や学校、地域での日常の備えや身の守り方、応急手当の方法などを指す。「災害後に役立つもの」とは、ライフラインが復旧するまでに自分たちの生活を支えるものを意味し、家庭・学校・地域での物資、心構え、約束事等を指す。なお、平成28年度からは、生活安全や交通安全など、日常時の危険や安全確保に関するものも含むこととする。

「危険の予測」とは、災害の種類や時刻・場所などの発生状況を想定し、災害に関する知識や知り得た情報を基にしてどのような危険が及ぶかを考えることを指す。「どのよう

に行動すればよいかを判断する」とは、予測した危険を避けるための方法を考え、最善の策を選択することを指す。

「下級生の安全に心配りする」とは、災害時のみに限らず、日常生活において、自分だけでなく下級生の安全にも心がけて行動しようとする態度のことである。「地域の安全のために役立とうとする」とは、地域で自分ができることを考え、実践しようとする態度を指す。また、防災の学びや震災の教訓を伝えようとすることも含む。「将来に夢や希望を持つ」とは、自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持とうとすることを指す。

4 特別支援

- (1) 地震や大雨，強風，雷など，生活の中には危険が潜んでいることを理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気付く，身を守ろうとする。
- (3) 感謝の気持ちを持って身近な人たちと関わり，自分にできることをしようとする態度を育てる。

「生活の中に潜む危険」とは、地震や大雨，強風，雷など，児童の普段の生活場所で起こりうるものの中で，身の危険を感じる状況を指す。

「身の回りの危険に気付く」とは，学校や家庭，通学路などにおいて地震や大雨，強風，雷などに遭ったとき，どんな危険があるかに気付くことを指す。「身を守ろうとする」とは，それぞれの児童に可能な方法で危険を避けるための身の守り方を考えたり行動したりすることを指す。なお，平成28年度からは，生活安全や交通安全など，日常時の危険や安全確保に関するものも含むこととする。

「感謝の気持ちを持つ」とは，家族を含め，普段から防災や安全のために見守ってくれている人がいることに気付く，感謝の気持ちを持つことを指す。「身近な人たちと関わる」，「自分にできること」とは，進んで挨拶をしたり，それぞれの児童に可能な方法で，自分の気持ちを相手に伝えようとしたりすることを指す。

第4節 防災安全科の内容

1 防災安全科の内容構成

現行学習指導要領の各教科・領域に含まれる防災関連の内容と現行学習指導要領の各教科・領域にはない新たな内容を加え，防災安全科で取り扱う内容とした。

内容の構成	内容の項目
A 災害の理解に関すること (災害の理解)	(1) 災害の種類や特徴等 (2) 発生メカニズムや被害 (3) 地域で起きた過去の災害・伝承 (4) 災害防止や復旧・復興の取組

	(5) 生活安全・交通安全
B 危険から命を守る方法に関すること (命を守る方法)	(1) 身の守り方や避難の仕方 (2) 情報を生かす方法 (3) 応急手当の方法 (4) 生き抜く知恵と技能
C 日常の備えに関すること (備え)	(1) 家庭での備え (2) 学校や地域での備え
D 危険の予測・判断に関すること (予測・判断)	(1) 危険の予測 (2) 安全のための判断
E 支援者の基盤に関すること (支援者の基盤)	(1) 冷静な行動と強い心 (2) 感謝や思いやりの心 (3) 自然愛護と生命尊重 (4) 関わりを持とうとする
F 社会貢献に関すること (社会貢献)	(1) 被災者の支援 (2) 教訓を伝えようとする (3) 地域に役立とうとする (4) 夢や希望を持とうとする

内容は、6つで構成される。A、B、C、Dは主に自助の能力、EとFは主に共助の態度に関わる。また、A、B、Cは主に理解目標、Dは主に能力目標、EとFは主に態度目標に関わる内容である。さらに、6つの構成を21項目に細分化した。

2 各学年の内容

内容構成と項目ごとに、各学年の内容を以下のように設定した。

内容構成と項目	第1, 2学年	第3, 4学年	第5, 6学年	特別支援
A 災害等の理解に関すること	(1) 災害の種類や特徴等を理解する。 ・地震や津波について知る。 ・大雨や強風, 雷などについて知る。	・災害とは何かを理解する。 ・地震や津波の特徴を理解する。 ・大雨や強風, 雷などの特徴を理解する。	・災害の種類や特性を理解する。 ・災害の原因(自然と社会)を理解する。	・地震や津波について知る。 ・大雨や強風, 雷などについて知る。
	(2) 発生メカニズムや災害による被害等を理解する。 ・地震や津波による危険について知る。 ・大雨や強風, 雷などによる危険について知る。	・地震や津波による被害を理解する。 ・大雨や強風, 雷などによる被害を理解する。	・災害の特性と発生メカニズムを理解する。(5年で気象, 6年で地震と津波) ・災害による被害を理解する。	・地震や津波による危険について知る。 ・大雨や強風, 雷などによる危険について知る。
	(3) 地域で起きた過去の災害と伝承 ・地域に伝わる災害の伝承を知る。 ・地域に起こった災害を知る。	・地域に伝わる災害の伝承を知る。 ・地域で起きた災害の被害の様子	・東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。 ・東日本大震災や過去の災害の被	

	を理解する。		を理解する。	害の様子を理解する。	
	(4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が協力して防災に取り組んでいることを知る。 ・地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関による防災の取組を理解する。 ・関係機関による災害復旧や復興の取組を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や自治体による防災に関する取組を理解する。 ・国や自治体による災害復旧や復興の取組を理解する。 	
	(5) 日常生活や交通場面における危険を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内、校外で起こるけがの原因や危険を知る。 ・登下校時の歩き方や横断の仕方、自転車の乗り方の基本を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いっどこでどんなけがが起こりやすいかを理解する。 ・道路交通の危険と道路の安全な歩行の仕方、自転車の正しい乗り方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな行動がけがや事故を引き起こすかを理解する。 ・交通事故の原因と交通の決まり、自転車の安全な利用を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内、校外で起こるけがの原因や危険を知る。 ・登下校時の歩き方や横断の仕方、自転車の乗り方の基本を知る。
B 危険から命を守る方法に関すること	(1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・危険から身を守る方法や避難の仕方を知る。 ・大人に助けを呼ぶ方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等に対応した身の守り方や避難の仕方を理解する。 ・119番通報の仕方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険から身を守る方法や避難の仕方を知る。 ・大人に助けを呼ぶ方法を知る。
	(2) 情報を生かす方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・住所や電話番号など、自分の情報の伝え方を知る。 ・家族の連絡先を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と連絡を取り合う方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の心の変化と行動を理解する。 ・災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全ノート(自分の住所、電話番号、家族の連絡先、集合場所)を家族と共に作り、使えるようになる。
	(3) 応急手当の方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・軽いけがの時は傷口を水洗いすることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽いけがの時の止血方法を知る。 ・AEDの設置場所を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。 ・AEDの機能を理解する。 	
	(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・水・電気・ガスの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインが止まったときの対処法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水・電気・ガスの大切さを知る。
C 日常の備えに関すること	(1) 家庭での備えを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での設備に関する備えを知る。 ・家庭では物資や食料に関して、どのような備え 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での設備に関する備えを調べ、大切さを理解する。 ・家庭での物資や食料に関する備 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での設備に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。 ・家庭での物資や食料に関する備 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での備えがあることを知る。

		<p>があるかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。 	<p>えを調べ、大切さを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。 	<p>えを調べ、工夫や必要性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。 	
	(2) 学校や地域での備えを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で備蓄や備えがあることを知る。 ・地域の避難場所や子ども110番の店などを知る。 ・地域には防災に役立つ設備があることを知る。 ・避難訓練や防災訓練では、周りの人の指示をしっかりと聞き、落ち着いて行動する大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の備蓄について調べ、災害時への備えを理解する。 ・地域の避難場所や子ども110番の店などの役割を理解する。 ・地域にある防災に役立つ設備について知り、地域の防災を理解する。 ・避難訓練や防災訓練では、話をよく聞いて、指示に従ったり、安全に行動したりする大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の備蓄を調べ、工夫や災害時への備えを理解する。 ・地域の防災に関する取組を理解する。 ・地域にある防災に役立つ設備について調べ、地域の防災を理解する。 ・避難訓練や防災訓練では、危険を予測し、安全を確保するために行動する大切さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の避難場所や子ども110番の店などを知る。
D 危険予測・判断に関すること	(1) 危険を予測する。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を考える。 ・通学路での災害等の危険を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を考える。 ・学校や家庭、地域での災害等の危険を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等の種類による危険を考える。 ・場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家の周りにおける災害等の危険を知る。
	(2) 安全のために判断する。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を避けるためにどう行動するかを考える。 ・通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。 ・学校や家庭、地域での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。 ・場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による危険を避けるためにどう行動するかを判断する。 ・通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを判断する。
E 支援者の基盤に関する	(1) 冷静な行動と強い心を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の指示をよく聞いて行動しようとする。 ・どんな時でも頑 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの様子や指示に応じて行動しようとする。 ・困ったときにも 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて落ち着いて行動しようとする。 ・困難に直面して 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の指示をよく聞いて行動しよう

ること	とうとする。	張る心を持つとうとする。	投げ出さない心を持つとうとする。	も負けない強い心を持つとうとする。	とする。
	(2) 感謝や思いやりの心を持つとうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持つとうとする。 ・友達や周りの人に親切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持つとうとする。 ・友達や下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になっている方々に感謝の気持ちを持つとうとする。 ・困っている人に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持つとうとする。
	(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の世話を通し、自然を大切にしようとする。 ・自然の美しさやすごさを感じようとする。 ・生きものに優しくしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命のつながりを感じて、自然や動植物を大切にしようとする。 ・自然の美しさやすばらしさを感じようとする。 ・命あるものを大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の美しさや偉大さを感じ、自然を守っていかうとする。 ・自然の力を知り、自然に対する畏敬の念を持つとうとする。 ・命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育・栽培活動を通して、自然や命のすばらしさに気付く。
	(4) 関わりを持つとうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。 ・友達や近所の人たちと関わろうとする。 ・自分の思いを相手に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になっている地域の方から自分から挨拶をしようとする。 ・地域の行事などに参加し、身の回りの人とつながろうとする。 ・相手と互いに思いを伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になっている方々に進んで挨拶をしようとする。 ・地域の行事などに参加し、地域とつながりを持つとうとする。 ・思いを伝え合い、互いのよさを認めながらコミュニケーションを取ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。
F 社会貢献に関すること	(1) 被災者を支援しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立ちたいという気持ちを持つとうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動について知り、自分たちができることを考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちができることを考えて、支援しようとする。 	
	(2) 教訓を伝えようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。 	
	(3) 地域に役立とうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの人のために役立とうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域のために役立とうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のために役立とうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ防災のことを、

	する。				家族や友達に伝えようとする。
	(4) 夢や希望を持つとする。	・ルールや決まりを守り，安全に生活しようとする。	・防災の意識を持って安全・安心に生活しようとする。	・防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持つとする。	・安心して，希望を持って生活しようとする。

3 内容の取扱い

防災安全科の限られた時数において，内容として設定した上記の21項目すべてを学年または学年部で扱うことは困難である。よって，繰り返し扱う内容や重点的に扱う内容，他教科等で扱って関連を図っていく内容など，どのように内容を取り扱っていくかを次のように設定した。

内容		内容の取扱い（一般）	内容の取扱い（本校）
A 災害等の理解	(1) 災害の種類や特徴	A(1)は，全学年ともに扱う。	A(3)は，第4学年で扱う。
	(2) 発生メカニズムや被害	A(2)，A(3)，A(4)は，第4，5，6学年でそれぞれ1項目を選択して扱う。	A(2)やA(4)は，第5，6学年で扱う。
	(3) 過去の災害・伝承	A(5)は，生活安全，交通安全の一部を防災と関連させて扱う。	A(5)は，全学年で交通安全（道路の歩行と自転車），生活安全（校内安全と校外安全）の内容を選択して扱う。
	(4) 災害防止や復旧・復興		
	(5) 生活安全，交通安全		
B 命を守る方法	(1) 身の守り方と避難の仕方	Bは，全学年ともに，B(1)，B(2)，B(3)，B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。	B(1)は，第1，2学年で扱う。
	(2) 情報を生かす方法		B(2)は，第6学年で扱う。
	(3) 応急手当の方法		B(3)は，第3，5学年で扱う。
	(4) 生き抜く知恵と技能		B(4)は，第4学年で扱う。
C 備え	(1) 家庭での備え	C(1)またはC(2)は，全学年ともに，それぞれ1項目を選択して扱う。	C(1)は，第1，3，5学年で扱う。
	(2) 学校や地域での備え		C(2)は，第2，4，6学年で扱う。
D 予測・判断	(1) 危険の予測	D(1)とD(2)は，全学年ともに扱う。他項目と関連して扱	
	(2) 安全のための判断		

		う。	
E 支援者 の基盤	(1) 冷静な行動と強い心（道徳等）	Eは、主に第1， 2，3学年で扱う。 E(1)とE(3)は、道 徳等で扱い、関連を 図る。	
	(2) 感謝や思いやりの心		
	(3) 自然愛護と生命尊重（道徳等）		
	(4) 関わりを持とうとする		
F 社会貢 献	(1) 被災者の支援	Fは、主に第4， 5，6学年で扱う。 F(1)，F(2)，F(3)， F(4)から1，2項目 を選択して扱う。	F(1)とF(2)は、第4 学年で扱う。 F(2)とF(3)は、第5 学年で扱う。 F(3)とF(4)は、第6 学年で扱う。
	(2) 教訓を伝えようとする		
	(3) 地域に役立とうとする		
	(4) 夢や希望を持とうとする		

上記のように、21項目の中から第1，2，3学年は7項目程度，第4，5，6学年は8，9項目程度を選択して扱う。なお，特別支援においては，個々の児童の実態に応じて，内容を取り扱うものとする。